2025－ 5－1

28【街の散策からの気づき発見】
春日部大通りと八坂神社

会員 K.T.

春日部大通りを散策している。見慣れた散策道も「何故？」と、気付くことが増えた。現場で現物を見て現実を確認して考えることは、現役時代に学習したことだが、最近は歴史を追加するようになって、「何故？」の気付きが増えたように思う。

春日部大通り入口付近の一宮交差点は、江戸時代粕壁宿の日光街道筋であった。現在の国道4号線は昭和 27 年(1952)に開通した。それまでの国道4号線は春日部大通りだった。

春日部市郷土資料館・『粕壁 宿と町の歴史』の資料から引用すると、

「（前略）粕壁の町は日光に近い方が上手で、真言宗最勝院などがある旭町（旧寺町・横町、寺横町）がつきあたりにあり、道に沿って、上町、仲(中)町、新宿、元町、三枚橋、一宮町と続き、江戸方面の宿の入り口に、市神である牛頭天王社（現・八坂神社）が祀られています。（後略）」、とある。

八坂神社は京都が総本山である。平安京遷都(794)以前より、現東山区祇園町に鎮座する古社で、「祇園さん」と呼ばれ、京都の東の守り神とされてきた。「祇園」とは仏教僧院のことを意味し、祭神の素戔嗚尊は牛頭天王とも称されている。「はて？」、と思う。牛頭天王は古代インドの僧院・祇園精舎の守護神で、一方の素戔嗚尊は日本神話に登場する神である。仏教の守護神と日本神話の神が同じ、として祀られているのは、「何故だろう？」。八坂神社の京都の総本山ホームページで、調べてみる。

「（前略）日本三大祭りでもあり、世界的にも有名な祇園祭は疫病が鎮まるようにとの祈りを込めて約 1150 年前（平安時代）にはじまった当社の祭礼です。八坂神社の主祭神・素戔嗚尊（すさのをのみこと）は、往古牛頭天王（ごずてんのう）とも称し、また薬師如来を本地仏として、人々の疫病消除の祈りを聞き届け、多くの祈りはやがて祇園信仰となりました。（中略）八坂神社では祭礼を通して氏子の皆様の暮しに息づく祇園信仰を要に、神仏が相和して人々の祈りに応えた時代に照らしながら、大神様の御神威を遍く人々の元に届け、氏子崇拝者の皆様の心豊かな生活に貢献できるよう努めて参ります。 八坂神社 宮司 野村明義 」

と、あり、「往古より同じなのです」、と曖昧である。神代のことなので、不明のままでいい、ということらしい。

さらに、八坂神社の「略年表」をみると、「慶応４年(明治元年/1868)社名を祇園感神院（祇園社）より八坂神社に改称する」、とある。1868 年は明治維新で、新政府から神仏分離令がだされた時に改称している。

余談ながら、新政府により神道と仏教を分離するという、この太政官令は、仏教を排除するものではなかったが、結果としては、廃仏毀釈運動が起こり、明治９年(1876)頃には収束をするも、全国で多くの寺院廃合、僧侶の神官への転向、寺院建物・仏像・仏具が破壊された。日本の歴史上の暴挙といえる事象だ、と思う。

神仏習合という日本固有の神と外来の仏教を融合した思想は、奈良時代(710～784)に始まったといわれる。明治の廃仏毀釈運動は、この伝統文化を発作的に打ち壊した。文豪、夏目漱石(1867～1916)は、いう。

「人は日本を目して未練なき国民といふ数百年來の風俗習慣を朝飯前に打破して毫も遺憾と思はざるは成程未練なき国民なるべし、去れども善き意味にて未練なきか、悪しき意味に於いて未練なきか、は疑問に属す。（後略） 明治３４年(1901) 断片 『漱石全集』第１９巻 」

仏教は6世紀の伝来当初、異国の神とされていた。奈良時代になり経典知識が普及すると、日本の神々も仏教の護法善神とする思想が生まれた。平安時代(794～1185)の初頭から神に菩薩号をあたえ、神仏一体とみる習合思想が発展した。長い歴史を持つ神様も神社の名を改称せざるを得ない苦難の時があった。古い寺社を多く残す粕壁宿、明治初期の人々は廃仏毀釈の嵐をどのように乗り越えたのだろうか、と思う。